

令和7年度 学力・学習状況充実プラン

1	令和7年度学力・学習状況充実プランについて	1
2	授業改善に向けて	
(1)	小学校の正答数分布の傾向	2
(2)	中学校の正答数分布の傾向	3
(3)	小学校の問題別調査結果と授業改善のポイント	
①	国語	4
②	算数	6
③	理科	8
(4)	中学校の問題別調査結果と授業改善のポイント	
①	国語	10
②	数学	12
③	理科	14
(5)	質問調査の傾向	16
(6)	授業改善の方向性	20
3	先生方へ	21



愛知県教育委員会義務教育課
愛知県総合教育センター

令和7年10月

1 令和7年度学力・学習状況充実プランについて

令和7年度全国学力・学習状況調査が、4月17日【木】（中学校理科は4月14～17日の間でオンライン実施）に小学校6年生、中学校3年生を対象に行われました。全国の結果や本県の経年変化等を分析し、見えてきた本県の課題等を基に、「令和7年度学力・学習状況充実プラン」を作成いたしました。

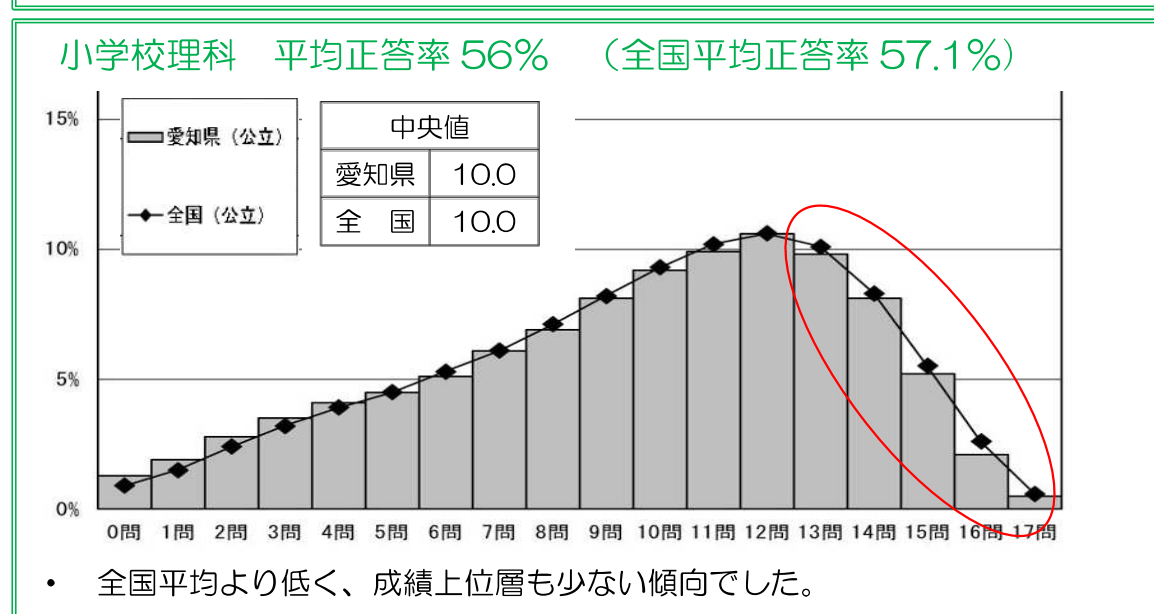
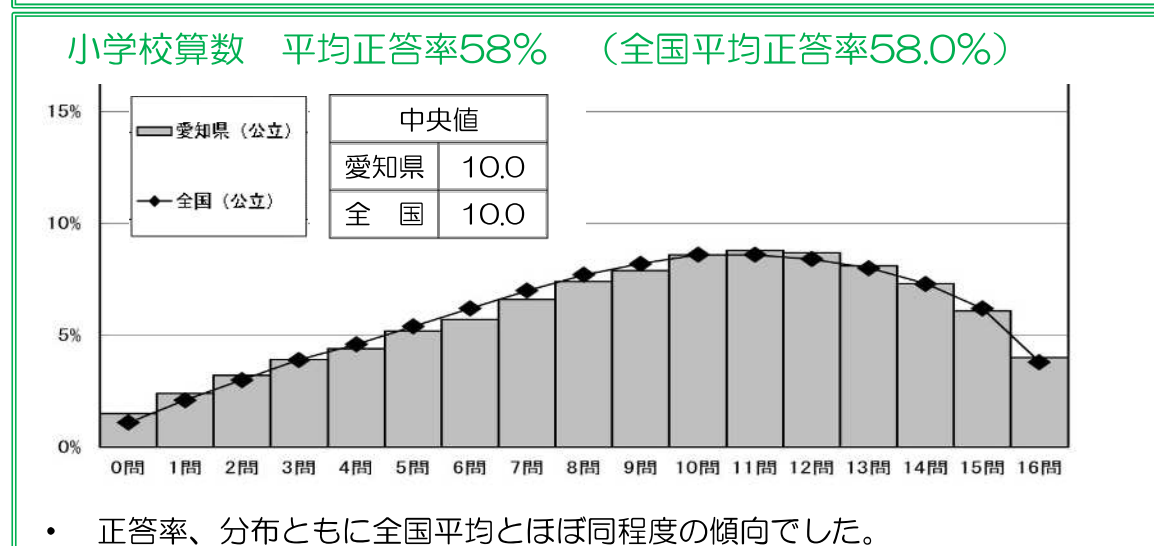
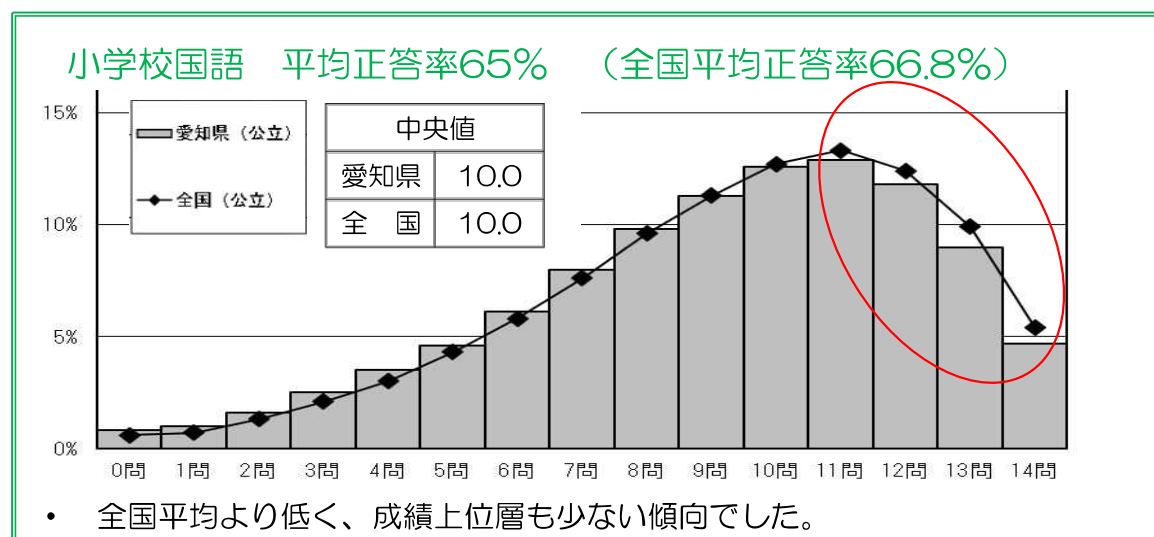
今年度の調査は、国語、算数・数学、理科について実施されました。経年変化等の分析からは、改善の傾向が見られたものもある一方、依然として課題が認められるものがあります。

そこで、本県の児童生徒の現状から見えてきた課題等を基に、本プランを作成しました。児童生徒の学力・学習状況の向上・改善のために、調査対象の学年のみならず、すべての児童生徒を対象とした学習指導改善、授業改善に役立てていただけるよう工夫しました。

また、各教科の「問題別調査結果と授業改善のポイント」のページには、国立教育政策研究所教育課程研究センターの二次元コードを添付し、授業アイデア例を参考にすることもできるようにしてあります。ぜひ、併せて活用してください。

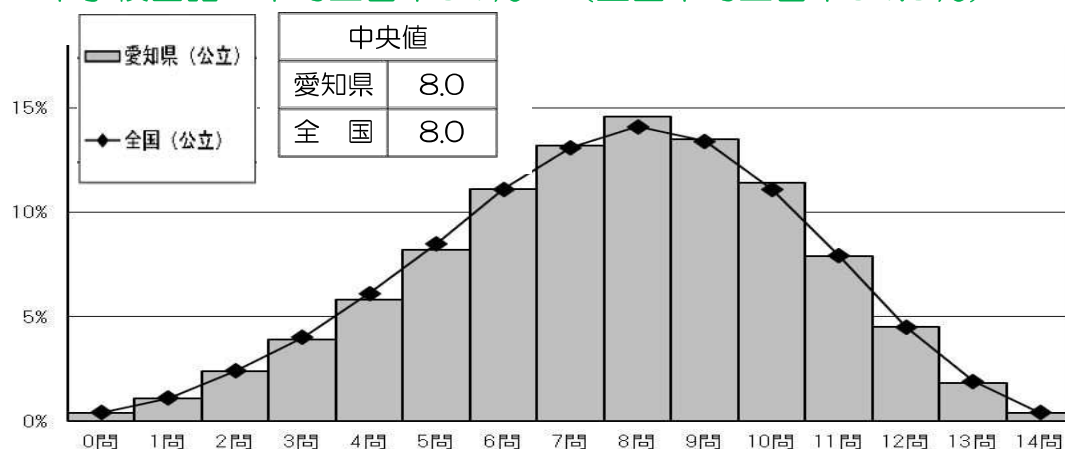
2 授業改善に向けて

(1) 小学校の正答数分布の傾向



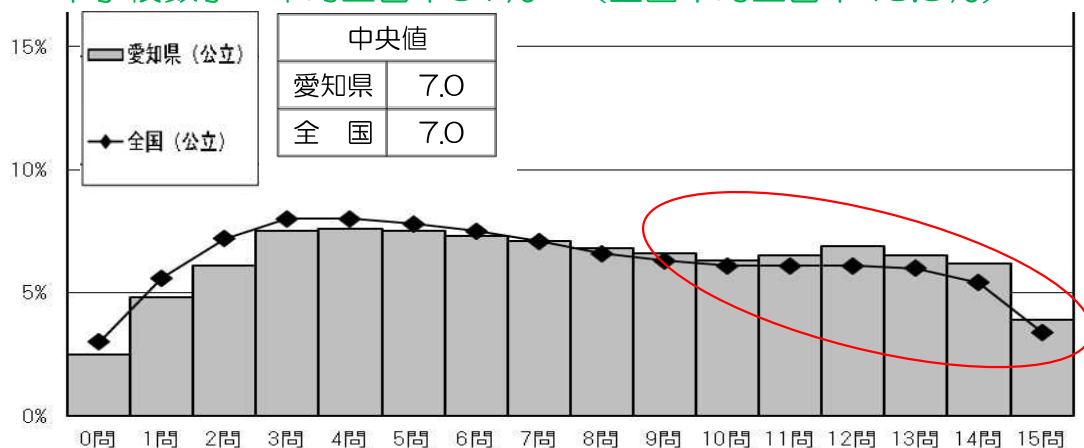
(2) 中学校の正答数分布の傾向

中学校国語 平均正答率54% (全国平均正答率54.3%)



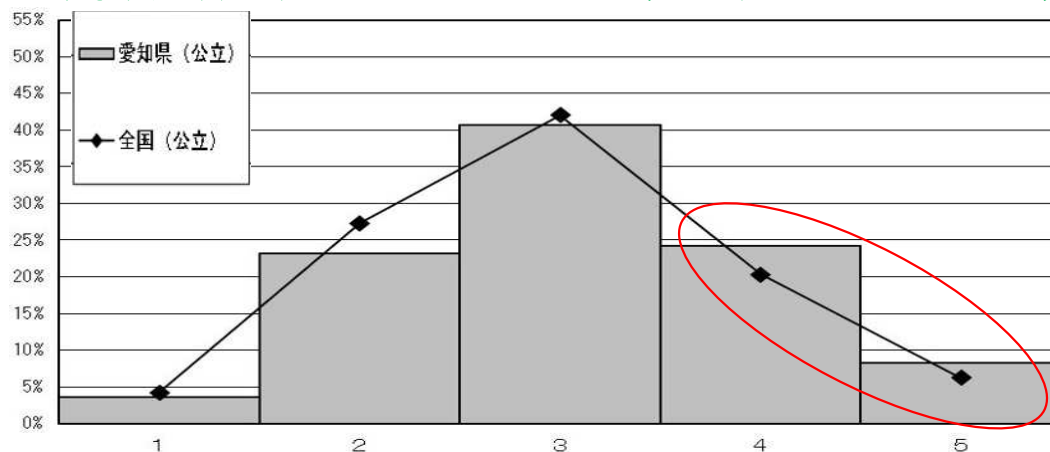
- 正答率、分布ともに全国平均とほぼ同程度の傾向でした。

中学校数学 平均正答率51% (全国平均正答率48.3%)



- 全国平均より高く、成績上位層も多い傾向でした。

中学校理科 平均IRTスコア521 (全国平均IRTスコア503)



- 全国平均より高く、成績上位層も多い傾向でした。

(3) 小学校の問題別調査結果と授業改善のポイント 【小学校国語】

問題別調査結果(全体)



集計結果

【平均正答率(%)】 愛知県(公立)65 / 全国(公立)66.8

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			(愛知県 公立)	(公立全国)	(愛知県 公立)	(公立全国)
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	57.7	61.3	6.5	5.0
【課題】考えをまとめて書いたり、伝えたいことを工夫して書いたりすることに課題がある。 【指導のポイント】書く目的や意図を明確にした上で、効果的な書き表し方を考えるような学習活動を行うことが重要である。一人一人の学習状況を捉え、できていることを認め、つまずきについての的確に指導する。友達同士で文章を見せ合って話し合ったり、教師が価値付けたり、詳しく書き表す方法等について学級全体で考えたりする中で、自分の文章のよさを生かし、書きたいことに合う方法を見つけられるような授業を展開することが大切である。						
3三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	39.1	40.8	4.3	3.4
【課題】文章や資料から必要な情報を取捨選択したり整理したりすることに課題がある。 【指導のポイント】目的に応じて、文章と図表等を結び付けながら、必要な情報を取捨選択したり、整理・再構成したりするような学習活動を行うことが重要である。目的を明確にした上で、情報を集める十分な時間と環境を設定する。集めた資料に書かれている要旨を捉えたり、必要な情報かどうかを確かめたりすることを通して、児童が必要な情報を見付けられるよう促すことが大切である。						
授業アドバイスシート：次ページ						

小学校国語

小学校国語 3三(1) ≪平均正答率 39.1% (全国平均正答率40.8%)≫

【出題の趣旨】

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。

3

木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなが「資料1」を読みました。そして、「資料1」を読んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることにしました。「資料1」をよく読んであとの問いに答えましょう。

【資料1】

言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて規範的であった言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなったり、使い方が変わったりする場合は少なくありません。ですから、意味や使い方に揺れが生じている言葉について、「この使い方が正しい」と決めつけるのは短絡的ともいえるでしょう。①この本を読むとお気づきになると思いますが、文化庁国語課では、言葉の意味について「正しい」「誤り」といった判断をせず、代わりに「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています。言葉の正誤を軽々しく決めることはできないと考えるからです。とはいえ、どんな言葉を使ってもいい。というわけではありません。③コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。

④「言葉は生きています」とも言われます。その広がりや深さにも、触れていただきたいと考えています。

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、「資料1」を読み返しています。次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

ぼくが読んだ二つの資料(「資料2」「資料3」)には、言葉が変化していることが書かれていたよ。「資料1」に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。

【資料4】

私は、この資料(「資料4」)を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとらえ方にちがいがいることが分かるでしょ。

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう。小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、「資料1」に「A」と書かれているとおもうよ。

(1) 【話し合いの様子】のAに当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 【資料1】の部① 3 【資料1】の部③

2 【資料1】の部② 4 【資料1】の部④

「雨模様」の意味のとらえ方

世代	雨が降りそうな様子 (%)	小雨が降ったりやんだりしている様子 (%)
10-19歳	50.4	31.9
20代	43.5	42.9
30代	53.7	34.1
40代	53.9	33.4
50代	61.2	26.1
60代	57.6	33.6
70代以上	46.2	39.8

(文化庁「令和4年度国語に関する世論調査」による。)



★授業改善のポイント★

文章と図表などを結び付けながら、目的に応じて必要な情報を見付けるためには、目的を明確にしたうえで、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが大切です。

右図のような学習活動を計画し、十分な時間や環境を設定します。多くの情報の中から必要な情報を見つける際、友達と協働しながら取り組む場面を設定します。手がかりとなる言葉を捉えることに課題がある児童に対しては、言葉の言い換えや具体的な説明を促し、児童が自分なりの考えをもつことができるように支援します。



《学習計画》

- ① 目的を明確にする
 - ・身近な生活や言葉から、興味・関心の高い話題を取り上げる
 - ・児童が話題を選んだり、選択したりできる工夫をする
 - ・情報を集めたり整理したりする目的と手順を伝える
- ② 情報を集める
 - ・本やインターネットで調べる
 - ・図書館司書に相談する
 - ・友達と情報交換する
- ③ 情報を取捨選択する
 - ・キーワードを手がかりにする
 - ・文章の要旨を捉えたうえで、必要かどうかを確認する
- ④ 自分の考えをまとめる
 - ・分かったことや考えたこと等を文章等にまとめる
 - ・友達と交流し伝え合う

【授業アイデア例】国立教育政策研究所報告書 P.71～77

https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25plang_idea_03.pdf#page=13



【小学校算数】

問題別調査結果(全体)



集計結果

【平均正答率(%)】 愛知県(公立)58 / 全国(公立)58.0

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			(愛知県 公立)	(全国 公立)	(愛知県 公立)	(全国 公立)
1 (2)	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	33.4	31.0	1.2	0.9

【課題】様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を他者に分かりやすく表現することに課題がある。

【指導のポイント】本設問を用いて「2023年の愛知県のブロッコリーの出荷量が2013年より増えたかどうか」について判断し、その判断の理由について説明する活動が考えられる。その際、棒グラフの特徴（データの中の数量の大きさの違いを一目で捉えることができる）や帯グラフの特徴（複数のデータについて項目の割合を比較することができる）を理解することが大切である。複数の帯グラフにおいて、項目の量を比較する場合、項目の割合だけではなく、帯グラフ全体の量にも着目する必要がある。割合は小さくても、実際の量は大きい場合もあるなど、見た目では量の大小が比較できないことを理解できるようにすることも大切である。

3 (2)	$3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	23.7	23.0	18.6	15.7
----------	---	---	------	------	------	------

【課題】分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、既習の整数の加法に帰着して考えることに課題がある。

【指導のポイント】本設問を用いて、 $3/4 + 2/3$ について、加数と被加数の単位分数に着目して、既習の整数の加法に着目できるかを考察する活動が考えられる。その際、同分母の分数の加法では、単位分数の幾つ分とみることで整数の加法に帰着することができたが、 $3/4 + 2/3$ は、 $1/4$ と $1/3$ と異なっているため、そのままでは加法に帰着できないと気付くことができるようにすることが大切である。その上で、 $3/4$ は $9/12$ 、 $2/3$ は $8/12$ とすると $1/12$ を共通する単位分数として考えることで、加法に帰着できることに気付くことができるようにすることが大切である。通分や加法、減法の計算処理の定着を図る指導ばかりではなく、計算の過程を言葉や数で記述する活動も丁寧に行うことが大切である。そして、このような指導が、【3(3)】の単位分数の捉え方や表記の仕方の理解にもつながるといえる。

授業アドバイスシート：次ページ

小学校算数

小学校算数 3(2) ≪平均正答率 23.7% (全国平均正答率23.0%)≫

【出題の趣旨】

分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかをみる。

3 (2)

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 2 個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 1 個分です。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、2 + 1 を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

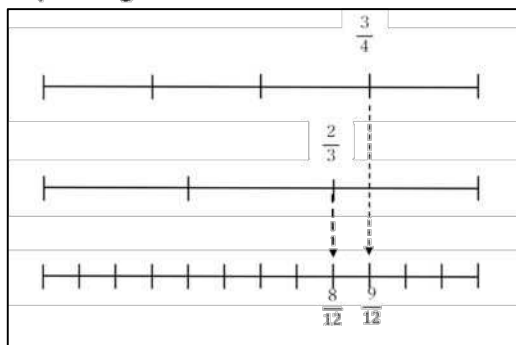


★授業改善のポイント★



異分母の分数の加法については、分母を通分することで共通する単位を見だし、単位分数の幾つ分とみることで、整数の加法に帰着できることに気付くようにすることが大切です。

分数は分母の大きさを変えることで、大きさの等しいいろいろな分数に表せることを数直線を使って表示すると視覚的にイメージすることができ、単位分数の理解につながります。ここでは、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ の分母の大きさを変え、 $\frac{1}{12}$ を単位分数と考えることで、整数の加法に帰着することができます。また、この加法について、数や言葉を使って説明するために、通分や計算の仕方だけを定着させるのではなく、常に単位分数の何個分であるかを問うなど、計算の意味について確認する学習活動が大切です。また、このような丁寧な指導が、3 (3) の単位分数の捉え方や表記の仕方の理解にもつながります。



【授業アイデア例】国立教育政策研究所報告書 P.80～83

https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath_idea_03.pdf



【小学校理科】

問題別調査結果(全体)



集計結果

【平均正答率(%)】 愛知県(公立)56 / 全国(公立)57.1

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			(愛知県 公立)	(全国 公立)	(愛知県 公立)	(全国 公立)
1 (2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる	58.3	60.5	10.3	8.5

【課題】観察や実験の結果を基に、結論を導いた理由を表現することに課題がある。

【指導のポイント】結果を基に、自分の考えを表現するためには、まずは観察や実験の結果を整理し、考察する時間を十分とることが重要である。結果を基に考察する際には、表やグラフなどに整理する活動を設けて、他のグループの結果と比較したり、複数の結果から多角的に考えたりしていく。また、根拠となる数値で表現する活動も丁寧に行うことが大切である。

授業アドバイスシート：次ページ

3 (2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる	42.7	45.6	1.2	0.8
----------	---------------------------------------	-------------------------------------	------	------	-----	-----

【課題】観察や実験で扱う器具や機器などを正しく操作することに課題がある。

【指導のポイント】顕微鏡でピントを合わせられる技能が身に付いていない児童が多いと考えられる。操作技能を身に付けさせるには、操作方法や手順をただ覚えるだけでなく、丁寧に一つ一つの動作の意味を理解させる授業を行うことが大切である。また、さまざまな状態を想定して実際に操作する学習活動を行ったり、観察する対象物を複数にして、実際に操作する機会を増やしたりする活動も操作技能を身に付けさせる上で効果的である。

小学校理科

小学校理科 1ー(2) ≪平均正答率 58.3% (全国平均正答率60.5%)≫

【出題の趣旨】

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる。

あかりさんたちは実験を行い、得られた【結果】を下のように整理しました。

【結果】 赤玉土に水がしみこむ時間		
	コップA (大きいつづ)	コップB (小さいつづ)
1回目	3秒	11秒
2回目	4秒	10秒
3回目	4秒	11秒

あかりさんは、【問題に対するまとめ】を考えています。



【問題に対するまとめ】は、「水のしみこみ方は、赤玉土のつづの大きさによって、ちがいがあるといえるね。」

(2) あかりさんが下線部のようにまとめたわけを、上の【結果】を使って書きましょう。



★授業改善のポイント★



観察、実験などの結果を基に、自分の考えを表現するためには、結果を整理し、具体的な数値を基に、より妥当な考えをつくりだし、表現することが大切です。

まずは、観察や実験の結果を整理し、考察する機会をしっかりと設けます。また、結果を基に考察する際に、表やグラフなどに整理する活動を設けて、結果を比較したり、複数の結果から、多角的に考えたりする時間をもちます。

児童によっては、自分の予想に沿って都合よく結果を解釈したり、結果を基にした考えを表現できていなかったりすることもあるかもしれません。そのため、結果を基により妥当な考えが表現できるよう、タブレット端末などを活用し、結果を即時に共有したり、表からグラフに整理したりするなどして結果に着目させながら指導します。

【趣旨・指導に当たって】国立教育政策研究所報告書 P.27～28

https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25psci_idea_01.pdf



(4) 中学校の問題別調査結果と授業改善のポイント
【中学校国語】

問題別調査結果(全体)



集計結果

【平均正答率(%)】 愛知県(公立)54 / 全国(公立)54.3

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			(愛知県 公立)	(全国 公立)	(愛知県 公立)	(全国 公立)
1 四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる	29.7	31.0	1.7	1.6

【課題】自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことについて課題がある。

【指導のポイント】自分の考えが伝わる文章にするためには、意見とそれを支える根拠を明確にして書くことが重要である。根拠を明確にするには、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめさせることが必要である。また、接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠を適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くように指導することが大切である。

授業アドバイスシート：次ページ

2 四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	22.2	23.2	4.1	4.0
-----	--	--	------	------	-----	-----

【課題】資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。

【指導のポイント】資料や機器を効果的に活用して、伝えたい内容が適切に伝わるように工夫することが重要である。その際、話の内容を踏まえ、話の要点や根拠が明らかになっているか、説明が不足していないか、中心となる事柄が強調されているかなど、自分の考えが聞き手に分かりやすく伝わっているかを確認するよう指示することが大切である。

3 四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	17.1	17.1	29.3	28.1
-----	--	---------------------------------------	------	------	------	------

【課題】文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることについて課題がある。

【指導のポイント】文学的な文章の構成や展開について考えるためには、作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが重要である。その際、文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているか、そのことがどのような効果につながるかなどについて考え、自分なりの意味付けをするよう指導することが大切である。

中学校国語

中学校国語 1ー四 ≪平均正答率 29.7%（全国平均正答率31.0%）≫

【出題の趣旨】

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。

【ちらし】（更新版②）

第一中学校 美術展

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいたしの出来です。

今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。

日 時 令和7年11月15日（土） 10時～16時
場 所 第一中学校 体育館
会場図

体験できる時間（各回30分間）
●10時～ ●11時～ ●12時～ ●13時～
中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。

第一小学校6年生のみさんへ

四 今年の美術展では、昨年の美術展に登場した小学生の感想をもとに内容を工夫しています。中井さんは、そのことを【ちらし】（更新版②）の□の部分に書き加えることにしました。あなたならどのように書き加えますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

- 条件1 今年の美術展の【工夫】のA、Bから1つ選び（どちらを選んでもかまいません）、それと結び付く小学生の【感想の一部】をAからウまでの中から1つ選び、それぞれ作り出すこと。
- 条件2 条件1で選んだ、今年の美術展の【工夫】と小学生の【感想の一部】との関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を使って書くこと。

【工夫】

- A 作品に込めた思いや作品をつくる過程について、中学生が、来場者の求めに応じて説明する。
- B 昨年はおみやげにしていたペン立てを、今年は体験コーナーを設けて、小学生につくってもらおう。中学生は、美術の時間に学んだことを生かし、手助けや助言をする。

【感想の一部】

- A どうやってあんなすばらしい作品をつくったのか知りたくなりました。美術でどんなことを学べるのが楽しみです。
- イ いろいろな作品が展示されていて楽しかったです。思いのこもった作品が多いように感じました。
- ウ おみやげにペン立てをもらえてよかったです。手づくりだと聞いてびっくりしました。私もつくってみたいです。



★授業改善のポイント★



自分の考えが伝わる文章にするためには、意見とそれを支える根拠を明確にして書くことが重要です。また、根拠を明確にするためには、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめる場面を設定する必要があります。

その際に、接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くよう指導します。

例 相手や目的を明確にして自分の考えを簡潔にまとめて書く学習（提案や企画）

- ① 書く内容に沿って材料を集める
- ② 意見と根拠の関係などに着目して関連付けながら整理する
- ③ 自分の提案や企画が、どのような事実や事柄に基づいたものであるかを書く
- ④ 内容を正確に伝えるために、接続する語句や指示する語句を適切に使い、意見と根拠を明確に示す

【授業アイデア例】国立教育政策研究所報告書 P.33～36

https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mlang_idea_01.pdf



【中学校数学】

問題別調査結果(全体)



集計結果

【平均正答率(%)】 愛知県(公立)51 / 全国(公立)48.3

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			(愛知県 公立)	(全国 公立)	(愛知県 公立)	(全国 公立)
6 (2)	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	26.6	25.7	23.7	24.9
【課題】式やグラフの意味を読み取り、論理的に説明する力が十分に育っていないことが明らかになった。複雑な構造の式や数量の関係を捉える経験が不足しており、計算力だけでは対応できない場面で無解答が多く、数学的な読解力や説明力の育成が必要である。 【指導のポイント】式の構造を分解し、各部分の意味を言葉で説明する活動を通して理解を深めることが重要となる。グラフや表から数量の変化を読み取り、予測の根拠を言語化する力を育てる必要がある。定型文を用いた説明練習や協働的な学習によって、論理的な表現力の向上を図る。 授業アドバイスシート：次ページ						
8 (2)	A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	40.2	38.0	33.0	35.0
【課題】グラフの傾きや座標の意味をもとに数量の関係を読み取り、予測の根拠を説明することに課題がある。特に、距離と運賃の関係を関数的に捉える視点や、単位量あたりの変化を活用する力が必要である。 【指導のポイント】グラフの点が「距離」と「運賃」を表していることを明確にし、傾き(1kmあたりの運賃)を求める活動を通して、数量の変化を関数的に捉える力を育てることが重要である。実生活に関わる料金や距離の問題を扱うことで、数学が身近な場面で活用できることを実感させ、予測の根拠を式や言葉で説明する力を高めることが大切である。						

中学校数学

中学校数学6(2)《平均正答率 26.6% (全国平均正答率25.7%)》

【出題の趣旨】

式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

- 6 結菜さんと太一さんは、3、6や12、15のような連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べるために、次の計算をしました。

$$\begin{array}{ll} 3、6 \text{ のとき} & 3 + 6 = 9 \\ 12、15 \text{ のとき} & 12 + 15 = 27 \\ 30、33 \text{ のとき} & 30 + 33 = 63 \end{array}$$

- (2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

結菜さんの式の変形の $3(2n+1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「 は、……である。」という形で書きなさい。



★授業改善のポイント★

「 $2(3n+1)+1$ 」のような式がどのような数を表すかを読み取る力を育てる必要があります。この式は「 $2 \times (\text{整数}) + 1$ 」の形で、奇数になることを示しています。例えば、

$$\begin{aligned} n=1 & \rightarrow 2 \times (3 \times 1 + 1) + 1 = 9 \text{ (奇数)} \\ n=2 & \rightarrow 2 \times (3 \times 2 + 1) + 1 = 15 \text{ (奇数)} \\ n=3 & \rightarrow 2 \times (3 \times 3 + 1) + 1 = 21 \text{ (奇数)} \end{aligned}$$

このように、 n にどのような整数を代入しても奇数になります。授業では、式の構造を分かりやすく説明する活動や、数値を代入して確かめる活動を通して、式の意味を理解する力を育てることが大切です。



【趣旨・指導に当たって】国立教育政策研究所報告書 P.41～42

https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mmath_idea_06.pdf



【中学校理科】

問題別調査結果(全体)



集計結果

【平均正答率(%)】 愛知県(公立)54 / 全国(公立)52.0

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			(愛知県 公立)	(全国 公立)	(愛知県 公立)	(全国 公立)
1 (2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる	42.7	46.2	8.3	8.0
【課題】身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を自分の言葉で表現することに課題がある。 【指導のポイント】生徒が疑問や問題を見だしやすい自然の事物・現象を提示するとともに、課題を自分の言葉で表現する場面を設定することが重要である。例えば、教師と生徒の関わりの中で学級全体の課題をつくったり、ペアやグループの課題をつくったり、具体物や教科書を使って個人で課題をつくったりする。その際、解決可能な課題をつくることができるように、教師が生徒の実態に応じて対話しながら進めることが大切である。 授業アドバイスシート：次ページ						
1 (4)	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	30.9	29.7	0.1	0.2
【課題】知識を概念として身に付けることに課題がある。 【指導のポイント】観察した生物の共通点や相違点を挙げ、生命を維持する呼吸の知識とを関連付けて考察する場面を設定することが重要である。学級全体やグループ活動を通して、生物の特徴を多面的に考察することが大切である。						
2 (1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	16.6	14.0	1.6	1.9
【課題】考察の妥当性を高めるために、科学的な探究の見通しをもつことに課題がある。 【指導のポイント】予想や仮説を基に実験を計画し、実験方法、実験結果の見通しをもつ場面を設定します。その際、個人やグループ活動を子供の実態に合わせて取り入れて、確認や共有をすることが大切です。また、「〇〇と比較して・・・」など、変える条件に着目した実験を計画することが必要です。						

中学校理科

中学校理科 1－(2)《平均正答率 42.7%（全国平均正答率46.2%）》

【出題の趣旨】

身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる。

理科 1 水をテーマに科学的に探究する

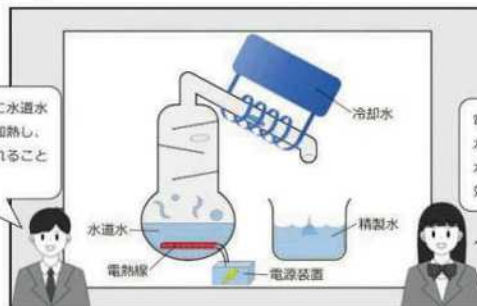
理科の実験で使用する水について考える



理科の実験で使用する水は精製水です。精製水について、調べたことを発表しましょう。

精製水は、右図のように水道水に電熱線を入れて水を加熱し、蒸留する方法でつくられることが多いです。

精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりすることによってつくった水です。



電気エネルギーを利用して水を加熱しているんですね。水は温まりにくいから、効率よく温める工夫が必要ですね。

課題を設定する

(2)

【Aさんの疑問】を解決するために、()に適切な課題を書きなさい。

課題

Aさん



【Aさんの疑問】
理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？

【Aさんの疑問】を調べたり、実験を行ったりして解決するためには、どのような課題にすればよいですか？



課題は、()にしようと思います。

Aさん



★授業改善のポイント★



生徒が疑問や問題を見いだしやすい自然の事物・現象を提示するとともに、生徒の実態に応じた課題を設定するように工夫します。例えば、教師と生徒の関わりの中で学級全体の課題をつくったり、ペアやグループの課題をつくったり、具体物や教科書を使用しながら個人で課題をつくったりしましょう。その際、解決可能な課題をつくることができるように、教師が生徒の実態に応じて対話しながら進めることが大切になります。また、設定した課題について、生徒自身が自分の言葉で表現する場面を設定することが必要になります。

【授業アイデア例】国立教育政策研究所報告書 P.35～36

https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25msci_idea_01.pdf



(5) 質問調査の傾向

児童生徒質問A（小31 中31）「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

小学校（児童回答）						中学校（生徒回答）					
選択肢	発表していた	どちらかといえば、 発表していた	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	発表していた	どちらかといえば、 発表していた	左記合計	前回との差	全国との差
令和7年度	27.1	44.0	71.1	0.6	2.5	令和7年度	18.1	45.9	64.0	-1.9	1.0
令和6年度	26.8	43.7	70.5	5.6	2.9	令和6年度	22.1	43.8	65.9	1.4	1.1
令和5年度	24.5	40.4	64.9	-2.0	1.2	令和5年度	22.4	42.1	64.5	-1.4	2.4

学校質問A（小26 中26）「児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている」

小学校（学校回答）						中学校（学校回答）					
選択肢	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	左記合計	前回との差	全国との差
令和7年度	11.6	64.9	76.5	2.2	-3.9	令和7年度	11.0	67.6	78.6	-6.1	-4.2
令和6年度	8.5	65.8	74.3	-2.4	-4.0	令和6年度	10.0	74.7	84.7	2.9	2.0
令和5年度	10.5	66.2	76.7	4.7	-2.3	令和5年度	9.4	72.4	81.8	4.0	0.2

児童生徒質問Aと学校質問Aを比較すると、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、学校（教師）の割合を3年連続で下回っています。また、中学校では、肯定的な回答をした生徒と学校（教師）の認識のズレが顕著になっています。

学校（教師）としては、事前の指導を施した上で発表の場を設定していると考えてはいるものの、児童生徒は自分の考えを表現する上で、さらなる工夫の余地があると考えているようです。発表活動を踏まえ、児童生徒自身が、何をできるようになり、どこに課題があるのかを認識できるような振り返りを行い、ICT機器等でその蓄積を図ることによって、児童生徒が次への目標をもって取り組むことができるようになると思います。

児童生徒質問B（小32 中32）「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」

小学校（児童回答）						中学校（生徒回答）					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和7年度	26.7	51.8	78.5	-1.8	-1.8	令和7年度	19.9	53.5	73.4	-4.2	-4.3
令和6年度	26.7	53.6	80.3	3.3	-1.6	令和6年度	24.6	53.0	77.6	1.5	-2.7
令和5年度	27.8	49.2	77.0	1.3	-1.8	令和5年度	27.4	48.7	76.1	-1.3	-3.1

小学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
国語	71.4	65.6	58.3	49.7
算数	66.4	58.1	49.2	39.9
理科	62.4	56.4	48.7	39.7

中学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
国語	61.5	55.7	48.0	40.3
数学	65.3	52.4	38.3	27.9
理科	58.0	52.7	47.1	42.5

※中学校理科は平均 I R T スコアで表示

学校質問B（小25 中25）「児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる」

小学校（学校回答）						中学校（学校回答）					
選択肢	そう思う	どちらかといえば、そう思う	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	そう思う	どちらかといえば、そう思う	左記合計	前回との差	全国との差
令和7年度	16.0	69.9	85.9	3.4	-3.4	令和7年度	15.5	66.9	82.4	-6.6	-5.8
令和6年度	12.6	69.9	82.5	-1.6	-5.7	令和6年度	13.6	75.4	89.0	4.3	0.6
令和5年度	15.5	68.6	84.1	3.1	-4.8	令和5年度	13.7	71.0	84.7	2.4	-3.3

児童生徒質問Bと学校質問Bを比較すると、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、学校（教師）の割合を3年連続で下回っています。また、肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率は高い傾向となっています。

知識の詰め込みや単純な繰り返しに偏重した授業ではなく、児童生徒の中から湧き出る問いを大切にした授業や児童生徒が自発的に学び取りに行く授業など、児童生徒の思考に沿って進む探究的な単元を構想することが、学力向上につながると考えます。

児童生徒質問C（小33 中33）「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」

小学校（児童回答）						中学校（生徒回答）					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和7年度	25.6	49.1	74.7	-2.0	-3.1	令和7年度	16.0	47.9	63.9	-6.3	-6.7
令和6年度	26.4	50.3	76.7	5.3	-2.9	令和6年度	20.7	49.5	70.2	7.0	-5.2
令和5年度	25.2	46.2	71.4	1.7	-3.0	令和5年度	18.9	44.3	63.2	0.4	-5.9

小学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
国語	70.8	65.5	60.6	54.6
算数	65.4	58.1	52.0	45.7
理科	61.7	56.3	51.1	44.7

中学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
国語	60.6	56.2	50.7	45.6
数学	62.3	53.7	43.6	35.1
理科	57.1	53.2	49.1	45.4

※中学校理科は平均 I R T スコアで表示

学校質問C（小34 中34）「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設ける」

小学校（学校回答）						中学校（学校回答）					
選択肢	よく行った	どちらかといえば、行った	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	よく行った	どちらかといえば、行った	左記合計	前回との差	全国との差
令和7年度	12.0	65.9	77.9	1.6	-9.0	令和7年度	10.2	62.1	72.3	-0.5	-8.0
令和6年度	12.9	63.4	76.3	-1.1	-9.4	令和6年度	8.8	64.0	72.8	3.9	-5.8
令和5年度	11.3	66.1	77.4	2.8	-8.2	令和5年度	8.5	60.4	68.9	0.3	-9.7

児童生徒質問Cについては、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、前年度と比較して減少しており、全国平均を下回っています。なお、肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率は高い傾向となっています。

学校質問Cについては、肯定的な回答をした学校（教師）の割合は、小・中学校ともに全国平均を大きく下回っています。

児童生徒が各教科等で身に付けた知識や技能を実際に活用し、問題解決に向けて探究的に学ばせる過程が大切です。児童生徒の探究的な学びを促進するためには、協働的なグループ学習が有効だと考えます。一方的に自分の思いを伝えることに主眼をおく「話し合い」ではなく、相手の思いを受容する「聴き合い」を大切にするとともに、学力の上下関係を意識させるような「教え合い」ではなく、互いに分からないことを分からないと言える対等な関係性をもった「学び合い」を実現できる人間関係の構築を図ることが大切だと考えます。

児童生徒質問D（小36 中36）「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」

小学校（児童回答）						中学校（生徒回答）					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和7年度	27.7	48.8	76.5	-1.8	-2.9	令和7年度	19.1	49.5	68.6	-6.0	-4.8
令和6年度	28.8	49.5	78.3	3.6	-2.5	令和6年度	23.5	51.1	74.6	9.1	-3.3
令和5年度	28.3	46.4	74.7	-1.5	-2.7	令和5年度	20.4	45.1	65.5	-7.0	-3.7

小学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
国語	70.2	65.7	60.2	53.5
算数	64.8	58.3	51.3	44.3
理科	61.1	56.4	50.7	43.7

中学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
国語	60.4	55.7	50.2	44.3
数学	64.0	52.8	41.4	31.9
理科	57.5	52.7	48.6	44.6

※中学校理科は平均 I R T スコアで表示

児童生徒質問Dについて、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、3年連続して全国平均を下回っています。なお、肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率は高い傾向となっています。

「ねらいの明確化」とともに「授業のまとめ（振り返り）」を適切な方法で行うことが児童生徒の学力定着や向上のためには有効です。適切な振り返りとは、児童生徒が評価にしか意識が向かない振り返りではなく、学び続ける上で必然性を感じる振り返りです。児童生徒がその授業で何ができるようになり、それはなぜなのかを自分自身が把握しているか、分からないことが明示されているか、次時に何をやりたいのか、何をすべきか、これらを児童生徒が自身の言葉で表現し、課題設定できるような振り返りを行うことが、学力向上につながると考えます。

(6) 授業改善の方向性

学びの主体は児童生徒です。学習指導要領では、児童生徒の「資質・能力」を総合的にバランスよく伸ばしていくことを目指しています。そのためには、私たち教師が日々の授業改善に取り組んでいくことが重要です。

1 楽しみながら基礎・基本の定着を図ろう

児童生徒が楽しく、切実感をもって学習したり、また学習を通して学ぶ意味を実感し、その学びを深めたり広げたりするほど、基礎・基本の定着度は増します。「児童生徒にとって学ぶ意味のある学習」「教師から見て学ぶ価値のある学習」を実現する学習サイクルを計画的に組み立てましょう。

- ①児童生徒が「解決したい」「追究したい」と思えるような「湧き出る問い」を提示し、その課題の解決に向けて、必要な知識・技能を自ら身に付けたいとなるような学習活動を設定する。
- ②児童生徒が教科の本質に迫る学習活動を通して、基礎・基本を活用しながら、学ぶ楽しさを味わうとともに、自らの学びが深まっていくことを実感できる授業をデザインする。
- ③児童生徒が「振り返り」を通して、自分の学びを俯瞰的に捉え、足りないところを授業や家庭学習等で主体的に補える学習サイクルに導く。

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組もう

児童生徒の実態把握と教材研究を通し、授業や単元におけるねらいを明確にした上で、教師が「個別最適な学び」や「協働的な学び」を盛り込んだ授業づくりを行いましょう。

- ①児童生徒が課題意識（ワクワク感）をもちながら、学ぶ意味や価値を見いだしたり、学習の見通しを立てたり、自己調整したりしながら探究したくなるような学習課題を自ら設定できるように工夫する。
- ②児童生徒が各教科の見方・考え方を、どのような場面でどのように働かせることができるかをイメージし、児童生徒の目線で授業展開を考え、組み立てを工夫する。
- ③児童生徒がペアやグループで互いの考えを聴き合い、自分の考えを深めることができるような、少人数での学び合いの場を積極的に取り入れる。
- ④カリキュラム・マネジメントを推進する中で、児童生徒が各教科等で育んだ「見方・考え方」を発揮できる場面をつくり、教科横断的な学びを促す。

3 一人一台端末を積極的かつ効果的に活用し、学習活動の充実を図ろう

学習のねらいを明確にし、課題を適切に設定したり、児童生徒の実態を的確に把握したりすることで、ICT機器を効果的に活用する時間を確保しましょう。また、ICT機器を活用することが目的ではなく、児童生徒がより「主体的・対話的で深い学び」へ向かうための効果的なツールとして、学習の種類・内容・難易度・一人一人の実態や特性等に応じて活用しましょう。

- ①ICT機器を必要に応じて活用しながら、児童生徒が学びの記録を蓄積したり、目的に合わせて他者と情報共有できるようにしたりする。
- ②ICT機器の活用を通じた児童生徒の気づきや考えを可視化し、積極的に他者とかわり合う時間を設ける。
- ③ICT機器を活用することにより、情報処理や情報共有のための時間を短縮し、児童生徒が学習のねらいに迫るために試行錯誤しながら考える時間を生み出す。

3 先生方へ

令和7年度全国学力・学習状況調査の本県の結果を分析し、見えてきた各教科の課題を踏まえ、重点的に取り組んでいただきたい内容を「授業改善のポイント」としてまとめました。

本年度の該当学年の課題として捉えるのではなく、今後の授業の中で、どの学年においても「授業改善のポイント」を参考に、意識的に取り組んでいただくことで各教科における児童生徒の資質・能力の向上につながると考えています。

学びの主体は児童生徒です。「教師が教える授業」から、「児童生徒が学びとる授業」へ転換し、全ての子供たちが生涯にわたって学び続けることができるよう、日々の授業改善に取り組んでいただきたいと思います。また、小学校・中学校の校種を問わず、それぞれの課題を共有しながら、目の前の児童生徒のための授業改善の一助としていただけることを願っています。

国立教育政策研究所のウェブサイトにも多くの事例が紹介されています。各学年の授業づくりにお役立ていただければ幸いです。

※ 国立教育政策研究所のウェブサイトへはこちらのアドレスから

<https://www.nier.go.jp/jugyourei/r05/index.htm>

